

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) など文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) など表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-101

部門名： 校内研修プログラム開発・実践部門	エントリー名： 邑楽町立長柄小学校				
活動名： 学びが活きる研修設計 体験型校内研修の検討と推進					
解決すべき課題： 学校課題が解決でき、研修価値が認識できる校内研修の実現 <p>従来の校内研修は個々の教職員の課題意識や研修意欲の反映が難しいことや、形骸化に陥りやすいこと、多忙感の要因となっていることなどが課題として挙げられてきた。このため、教職員が学校課題の解決を通して、個々のキャリア段階に即した資質・能力を身に付けることができ、研修価値が認識できるための校内研修の設計を検討し、その推進に取り組むこととした。</p>					
目標・方針： 学びが活き、教職員が活きる校内研修の実現 <p>【目指す児童像】 互いを認め合い、ともによりよく生きる児童 【目指す教職員像】 個々のキャリア段階に即した資質能力を身に付け、学校課題が解決できる教職員</p> <table border="1" data-bbox="163 871 1350 976"> <tr> <td>授業改善研修 (必修研修)</td> <td rowspan="3">学校課題の解決に向けた組織的な授業改善研修 喫緊の教育課題に対応するための実技研修 新しい教育課題に対応するための基礎研修</td> </tr> <tr> <td>資質向上研修 (必修研修, 希望研修)</td> </tr> <tr> <td>リカレント研修 (希望研修)</td> </tr> </table>		授業改善研修 (必修研修)	学校課題の解決に向けた組織的な授業改善研修 喫緊の教育課題に対応するための実技研修 新しい教育課題に対応するための基礎研修	資質向上研修 (必修研修, 希望研修)	リカレント研修 (希望研修)
授業改善研修 (必修研修)	学校課題の解決に向けた組織的な授業改善研修 喫緊の教育課題に対応するための実技研修 新しい教育課題に対応するための基礎研修				
資質向上研修 (必修研修, 希望研修)					
リカレント研修 (希望研修)					
活動内容： 学校課題が解決でき、研修価値が認識できる体験型校内研修の推進 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校課題の明確化を目指し、学校評価アンケートの結果及び標準化された学力テストの結果分析に取り組む。 2. 学校課題の解決及び目指す児童像の実現を目指し、①ワークショップによる「考え議論する道徳」の授業づくりと評価の検討、②模擬授業の実施、③一人二以上授業実践の実施と授業検討、に取り組む。 3. 喫緊の教育課題や新しい教育課題に対応できるための教職員の資質能力の育成及び目指す教職員像の実現を目指し、①個々の教職員が講師となり、個々が持つ知識・技能を伝達する実技研修の実施、②初任者研修や中堅教諭等資質向上研修等とリンクした基礎研修の実施、に取り組む。 					
活動の成果： 学びの価値が実感できる校内研修の実現 (以下、教職員の感想より抜粋) <ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳の授業づくりについて理解を深めることができた。他の先生方の授業を参観させて頂いたことが、とても勉強になった。研究授業を皆で考え、多様な意見を交流することができた。指導案を読み合う形式の研修と違い、自分ごととして関わった。 2. 得意な分野で先生方に教えて頂き、新たな発見を得たり、授業を行う面での不安の解消となったりした。多くの先生方の細かな技術が学べてよかった。様々な教科における実用的な知識が身に付いた。講師を務めたことで、指導内容の系統性が理解できた。職員間のつながりが深くなった。 					
アピールポイント (アイデアや工夫)： 学びが活き、課題が解決できる、校内研修の実現 <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校評価アンケートの結果及び標準化された学力テストの結果分析から学校課題を明確にし、課題解決のための研修を実施することで、教職員が研修価値を認識しながら目指す児童像に迫ることができる。 2. 個々の教職員が講師となることで、個々が持つ知識・技能をキャリア段階に即して伝達し合うことができる。 3. 校内研修を体験型にすることで、研修内容が日々の教育実践で活用できるものとなり、教職員が多様な課題に対応できるようになる。また、教職員間に対話が生まれ、学び合う教職員集団が実現する。 4. 法定研修等とリンクしたりリカレント研修を実施することで、新しい教育課題に対応するための基礎的な知識・技能を学ぶことができる。 					

平成 30 年度より全面实施となった「特別の教科道徳」の授業づくりが難しい。評価の方法に不安がある。

本校の児童の実態を確認したり、課題点の改善策を検討したりしたい。

教師に求められる資質・能力を高めたい。日々の授業で役立つ知識・技能を身に付けたい。



学校課題の明確化







学びが活き、教職員が活きる校内研修









「考え議論する道徳への授業改善研修」

- ・発問の検討
- ・授業マネジメントの検討
- ・評価方法の検討
- ・模擬授業の実施
- ・一人二以上授業実践の実施と授業検討

「リカレント研修」

- ・教育課程
- ・教育相談
- ・特別の教科道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・生徒指導
- ・特別活動

「資質向上研修」

- ・学校の危機管理
- ・教育法規
- ・家庭科実技
- ・体育科実技
- ・保護者対応
- ・外国語指導
- ・いじめ対策
- ・音楽科実技
- ・ICT 活用

【目指す児童像】 互いを認め合い、ともによりよく生きる児童
 【目指す教職員像】 個々のキャリア段階に即した資質能力を身に付け、学校課題が解決できる教職員

【学校教育目標】心身ともに健康で、学習に意欲的に取り組む、心豊かな長柄っ子を育てる

平成 30 年度 第 2 回学校評価アンケート結果 (以下、児童の回答より抜粋)
 道徳の時間に学んだことを実践している…86.2%
 友達の良いところを見つけたり、協力したりして遊ぶことができる…95.5%